

南魚沼産コシヒカリ 産地情報No. 1

新潟地方気象台は11月28日、新潟県内での初雪の観測を発表しました。また、南魚沼産コシヒカリが育まれる南魚沼では、翌日の29日に初降雪となり、いよいよ雪に閉ざされる季節を迎えました。この降雪は平年より4日遅く、昨年より10日早いと伝えられました。



令和2年4月を迎えた南魚沼では、降り積もった雪に覆われた田んぼや畑は顔を出し、春の陽気に包まれています。今シーズンは記録的な暖冬と小雪にみまわれ、2mを超える雪の壁を見ることはありませんでした。しかし、標高2,000メートル級の山々には、いまだ多くの雪が残っており、豊富な雪どけ水となって当地を潤してくれるでしょう。



さて、雪どけが早かった当地では、令和2年産米の田植えに向けた準備が始まっています。コシヒカリの種もみをまく「播種」の最盛期は、昨年より1週間くらい早い4月18日。ハトムネ状にまで膨らみ芽がでた種もみは、栄養豊富な土の上にまかれ、さらに土で丁寧に覆われます。



種まきの後は、出芽を促すための発芽器に移されます。発芽器には、種もみがまかれた育苗箱を一度に1,000枚ほど収納することができます。効率よく育苗箱を運ぶため、近年、大規模の農家はフォークリフトを活用しています。また、発芽器の中は約30℃の温度に加温され、出芽をそろえる役割を担います。

3日～5日後には、白くモヤシのような芽がでそろい、その後は日光に当てられ、緑色の丈夫な苗に育てられていきます。

今年の田植え（移植）のピークは5月17日頃を見込みます。健全は苗に育てるため、農家の皆さんは育苗障がい・病気に気を付けながら、育苗管理を進めます。

